

難民食料支援学び語り合う会⑨ ご案内 第2版

主催：NPO 名古屋難民支援室、アジア・ボランティア・ネットワーク・東海、地域と協同の研究センター

協力：生活協同組合コープあいち

※予定は変更になる場合があります。

3月30日はラマダンの期間のため、前回ご案内したものより開催時間を変更しました。

3月30日（土） 10時～12時30分



テーマ：名古屋高裁で勝訴したロヒンギャ難民の方のお話を聞き、日本（東海地域）にくらす難民の方々とともに学び語り合う

第6回～第8回の学び語り合う会で、東海地域にくらしている難民の方々の現状・想いをお聞きしました。ご自身の人生に対する思い、ご家族への思いに触れ、参加者皆が様々なことを考える機会となりました。

今回は、2024年1月25日に名古屋高等裁判所で勝訴したロヒンギャ難民のキンマウンソーさんをお招きしてお話を聞き、学び語り合います。

学びと交流 10:00-12:30

名古屋に住むミャンマーの少数派のイスラム教徒、ロヒンギャの男性が、国に難民認定を求めた裁判で、名古屋高等裁判所は、「ミャンマーではロヒンギャに対する民族浄化が行われていて、原告は迫害を受けるおそれがある」として1審とは逆に国に難民認定を命じる判決を言い渡し、判決が確定しました。このロヒンギャの方は、私どもの会で食料支援をしたことがあるご家族です！

ご本人に、日本での難民申請や裁判の経験についてお話をさせていただきます。そのあと参加者みんなで交流しましょう。

ラマダンについても、知り、語り合う機会といたします。

会場 コープあいち生協生活文化会館 4階会議室（名古屋市千種区稲舟通1-39）

〃 豊橋生協会館 会議室（豊橋市牟呂町松崎15）

オンライン

定員 50名

定員 35名

定員 なし

※参加費 無料 食料支援の食料品・現金の寄付を募ります。

※お申込み・お問い合わせ先（地域と協同の研究センター 平日10時～17時 伊藤まで）

電話 052-781-8280 FAX 052-781-8315

e-mail AEL03416@nifty.com <http://www.tiiki-kyodo.net/>

右のQRコードからもお申し込みいただけます。

お申し込みの際 以下のことをお伝えください。

名前・所属（あれば）・連絡先 参加時間帯

参加方法： 会場参加（名古屋・豊橋）

オンライン参加（オンライン参加の方はメールアドレス）



参加申込フォーム

難民食料支援学び語り合う会⑧

11月4日(土)の報告

11月4日(土)、「日本(東海地域)にくらす難民の方々とともに学び語り合う」をテーマに8回目の学び語り合う会を開催しました。参加者は、名古屋会場42名、豊橋会場9名、オンライン8名(うち難民の方々13名)の59名でした。今回は中東出身のアビさん(ニックネーム「青」という意)のお話をうかがい、交流しました。

<アビさんのお話>

■□ 母国では □■

母国ではずっと戦いが続いています。自分自身、そして家族が教育を受けるため努力してきました。自分の国の発展のために最善を尽くしてきました。

■□ 日本では □■

私は母国では医師でした。今は、お世話になっている方の紹介で、必要最低限の収入を得るための仕事をしていますが、今後は、自分の能力をつかって安定したフルタイムの仕事を探し、学術的にも貢献したいと思っています。そのため、日本語を集中して学ぶ奨学金を得られないかと思いません。日本では、日本語ができないと、医師の国家試験に合格することはできません。専門的レベルの日本語能力を持ち、自分のキャリア、人生を再建したいと思っています。

■□ 難民として受けてきたサポート □■

とても危機的状況の中で日本に住まわせてもらっていることについて、日本の市民社会のみならずと日本政府に感謝しています。まず、難民申請をするテクニカルなサポートをしていただきました。日本社会で暮らすために必要なこと、住居についても支援していただきました。ただ生きのこるためだけのサポートではなく、難民の声を聞いて、私たちがよりよい、人間らしい生活ができるためのサポートをしてくださっています。食べ物の支援はとても重要です。食料を提供していただけることで、食料に使うお金を節約することができます。

強調したいのは、難民が日本に暮らしていく力をつけていくことです。日本には台風や地震など自然災害が多いので、日本の人たちはそのための準備をしています。私たち難民はそのような準備ができていません。日本の人たちは非常の持出袋を家庭に用意していると知りました。これはとてもよいと思い、私たちもそれを用意していれば何かあった時に使える、命を救うものだと思います。

■□ 今後に向けて □■

少し前に、オンラインでポーランドの難民受け入れの状態を知るセッションに参加しました。ポーランドでは、難民が協力しあっています。たとえば自分の妻や子が病気になって、緊急的に病院へ行かないといけない時、言葉の壁があって私たちは救急車を呼ぶことができません。そういう時に連絡して、すぐに来てもらえるような日頃からの連携体制ができていれば、ニーズが満たされます。コミュニティをつくり連携することが大切だと思います。そのために、自分たちのニーズを知ることが大事です。この地域に暮らす難民のネットワークができれば、難民としての課題、ニーズについて知ることができ、交流をすることで次のステップへすすめるのではないかと思います。一緒に解決する動きができるのではないかと思います。

<会に参加した大学生から寄せられた感想>

- 危険を冒してやっと日本にたどり着いたとしても、入国前に送り返される・働く権利や医療保険の取得ができないなど、難民にとって現在の日本は決して暮らしやすい国ではないことが分かった。ニュース以外で実際に目にしたことはあまりないが、現在の日本にも差別は横行していて、難民が暮らしにくい理由の一つになっていると考えた。
- 1年次に受講した講義で難民に対する意見を話し合う機会があったが、難民受け入れに対する反対意見として治安の維持や今の日本は困窮している等が挙げられていた。講義で資料を見て意見を出し合うことは必要なことであるが、今回実際に難民の方に会った際に自分が如何に他人事として難民の問題に向き合っていたかを実感した。平等や平和が謳われる日本で難民への差別的な扱いを許して良いのか、日本人が貧困に置かれていることを危険な状況にある難民を見捨てる理由にして良いのかと思った。私達学生にできることは、難民について学び少しでも多くの人に現状を伝えることであり、ボランティアなどで直接支援することも可能であるが、世論や政府を動かして難民を支援することが最も現実的で効果的な問題の解決方法ではないかと考えた。